

アラビア語の二重言語性からみる規範と教育

ラトクリフ・ロバート

言語規範

1. アラビア語（標準語、文語）は次の22カ国で公用語として使われている。モータニア、モロッコ、アルジェリア、チュニジア、リビア、エジプト、シリア、レバノン、イラク、ヨルダン、クウェート、カタール、バーレーン、アラブ首長国連邦、オマーン、イエメン、サウジアラビア、スーダン。このうちジブチ、ソマリア以外の20カ国でアラビア語方言（口語）が母語として話されている。ただし、それらの国々の全ての住民がアラビア語母語話者というわけではなく、モロッコ、アルジェリア、スーダン等では少数民族、少数言語の話者の方が多い。また上の、アラビア語を公用語としていない、トルコ、イラン、イスラエル、チャド、ナイジェリア等の国々にもアラビア語方言の母語話者が少数民族として存在する。

2. 日本語やフランス語の「共通語」、「標準語」は、ある一つの方言を基本としているが、アラビア語の場合、「標準語」は7世紀のコーランのアラビア語であり、だれかの母語というわけではなく、アラビア語母語話者でも学校で学ばしめないものである。したがって教育を受けたアラブ人は、自分の母語である方言と文語（標準語）の二つのアラビア語を知っていることになる。この社会的な言語状態はdiglossia（二重言語性）と呼ばれている。

3. この文語と方言にどれくらいの差があるか、次の例を見ると解るだろう。

コーヒーを飲みたいです。

	I want	(to)	drink	coffee
文語	ʔuriidu	ʔan	ʔafraba	qahwatan
イラク	ʔariid		ʔafrab	gahwa
パレスチナ	bahibb		ʔafrab	ʔahwe
エジプト	ʔaayiz		ʔafrab	ʔahwa
モロッコ	byit		nfrəb	qahwa

各方言は大体、語彙（上の例文の各方言の最初の単語「したい」を参照）や発音（「コーヒー」の最初の子音を参照）で互いに異なっているが、文語にはないにもかかわらず全ての方言が共有する文法的な共通点もある。例えば、全ての方言において、名詞の格や動詞の法（ムード）を表す接尾辞、また代名詞や動詞の双数形がなくなった。互いに別の地域出身のアラブ人どうしが話すときに使うアラビア語は、完璧な文語・標準語ではなく、古めかしさをなくした文語、あるいは地域的な語彙や発音を文語の語彙や発音に入れ替えた方言である。こういう話し方はしばしばinter-Arabic「中間アラビア語」と呼ばれる。この中間アラビア語では先の例文は次のようになるだろう。

中間ア ʔuriid ʔan ʔaʔrab qahwa

4. アラブ世界の著名な作家や政治家などにはよく規範主義的な考え方が見られるが、彼らにとっては「文語」「標準語」「正則アラビア語」だけが真に正しく正当な言語である。20世紀の初頭の有名なエジプト人作家タハ・フサイン氏が「私はアンミーヤ（口語）を無知、貧困、そして病のような、社会の欠点とみなす」と言ったと言われている。逆に現代の記述言語学、構造主義から見ると、口語のみが自然言語であり、アラビア語方言研究者は一つ一つの方言を独立した言語として記述したり、文語をラテン語のような死んだ言語や人工言語として無視したりする。しかしもう一つの見方がある。Ferguson (1959)やBadawi (1973)のような社会言語学者は、文語・標準語と口語は別の言語ではなく、同じ言語の社会的なレベルあるいはレジスターであり、このレジスターは少なくとも2つ、多ければ5つあると分析している。この見方をアラビア語教育者は取り上げた方がよい。

言語教育

1. ある言語の言語教育とは講読、作文、会話、聴解の4つの技能をバランスよく訓練させることである。二重言語性を持つアラビア語の場合はこのバランスをとることが非常に大きな課題である。いま一つの言語教育の課題は教育方法を学生のニーズに合わせることである。全ての技能を一度にマスターはできないので、初めはどこかに焦点を絞っておく。例えば、会話は政治的な発表から始めるか？

日常会話からか？ 講読は新聞がいいか？ 小説がいいか？あるいは中世の哲学書がいいか？

アラビア語は外国語として教えられている歴史が長い。西暦9世紀までに言語学的な文法分析がかなり発達した。この文法分析の基本の上にアラビア語の伝統的な言語教育方法が打ち建てられている。しかしこの伝統的な教育方法は、特別な専門的學生集團のニーズのためのものであり、それはアラブ人以外のイスラム信者がコーランを読むためのものである。

2. 1 英語圏のアラビア語教育の歴史

ヨーロッパにおける最初のアラビア語教育は、この伝統的な教育方法がそのまま適用された。アラビア語の文法用語は初めラテン語に訳され、次にそれが英語に訳されたり、あるいはラテン語をそのまま英語化して使われた。こうして“broken plurals,” “hollow verbs,” “diptotes,” “elatives” などの奇妙で不思議な用語ができ上がった。この時代を代表する最も古い教科書は Thatcher (1922) である。その後、少し近代化された（ラテン語の用語が英語化された）教科書は、Cowan (1958), Haywood/Nahmad (1965) である。どちらも目的言語は文語だけであるが、古典アラビア語と現代の文語アラビア語を同時に教えようとするものである。教育方法は文法説明と翻訳である。全体の構成は文法記述を基礎にして作られているため、口語では使われない格変化が最初に詳しく説明され、実際のコミュニケーションで役に立つ数詞や曜日などは最後まで教えられない。

アラビア語教育の近代化の次の一歩である教科書は、ミシガン州大学が出版したシリーズ Abboud/McCarus (1968) である。この教材が中心にしているのは新聞記事を含む近代のテキストであり、また構成も技能教育を基礎にしている。しかし目的言語は依然、文語・標準語のみであって、言語二重性の問題は考慮されていない。しかしこの教材は70, 80年代に英語圏で最もよく使われた教材であった。

同じ時期、方言修得のための教材を改善する動きがあった。アラビア語方言研究は20世紀の初め頃、フランス、ドイツ、後にイギリスで発達した。これらの伝統の上にアメリカのジョージタウン大学は様々な方言の辞書 (Clarity, Stowasser & Wolfe 1964, Stowasser & Ani 1964, Harrell & Sobelman 1966, Woodhead & Beene 1967), 参考文法書 (Harrell 1962, Cowell 1964), 入門書 (Rice & Sa'id 1960, Harrell 1965) の作成を進めた。

現在、多メディア教育方法を表す、最も新しい教材は、Brustad, al-Batal & al-Tonsi (1995)である。この教材では、自然な社会的環境で標準語・文語を示している。ビデオの中で俳優は、カメラに向けて話すときは標準語を使い、俳優同士の普通の会話は方言で行う。

2. 2 さて現在、標準語・文語と方言の教材はいくつかの種類が考えられるが、アラビア語の2つのレジスターを教えるカリキュラムを作成するのはまだ難しい。基本的には3つの方法がある。

一つは口語のみで始めるものである。ある方言をまず教え、学生がある程度話せるようになったら文語を教える。アラビア語母語話者はこのようにアラビア語を習得するので、この方法は論理的には正しいが、どの方言を中心にするかという問題があり、実用的には難しい面がある。

もう一つは文語と口語の中間アラビア語(inter-Arabic)を中心とするものである。この方法を用いたコースはアメリカの外務教官の学校のために開発され、出版された(Ryding 1990)。この方法の危険性は学生を混乱させる可能性があるということである。

最後の方法は文語で始めて、基本的な知識ができれば口語の特徴、特に文語と違いを紹介するものである。文語の知識がすでにある学生に方言を教える教材は少ないが、実験コースのような教材が最近出来た (Nydell 1994)。この本はモロッコ、チュニシア、エジプト、シリア、イラク、湾岸の6つの方言の最大の特徴を教える。私はこのような教材を使いつつ、この大学において、このアプローチによる方言入門の授業を開発した。

結び

過去50年間で英語圏のアラビア語教育はかなり発展した。この発展は、社会言語学、記述言語学・方言論、第一・第二言語習得論、構造分析等の、言語学のいろいろな分野の研究結果を応用することでできたものである。ところが日本においてはアラビア語教育はこのあいだあまり発展してこなかったのではないか。最初に出版された教材(黒柳・飯森1976や池田1976)は基本的にはCowanの訳であるが、その後の教材も(内記1982, 奴田原・岡1989, 佐々木2000)その同じ内容の再整理以上には大きい変更がない。

私見では語学教育のレベルを高めるために最も重要なことは、言語学の知識を豊かにし、高めることである。そしてここでは広い意味での言語学である。言語というものは社会的、心理的、物理的、歴史文化的な現象である。これらの視点

から研究するためにはそれぞれの方法がある。語学教育の専門家、少なくとも教材やカリキュラムを作成する者は、それぞれの分野の方法や目的についての知識をもって、これらの分野の研究結果を適用すべきだろう。

* 本稿は、外国語教育学会第4回研究会「言語規範と外国語教育」（2001年7月28日、於東京外国語大学）における報告をもとに加筆修正したものである。

- Abboud, Peter F. and Ernest N. McCarus, eds. 1968. *Introduction to Modern Standard Arabic*. Dept. of Near Eastern Studies. University of Michigan. Ann Arbor.
- Badawi, al-Sa'id Muhammad. 1973. *Mustawayaat al 'Arabiyya al-Mu'aasira fi Misr*. Cairo.
- Brustad, Kristen, Mahmoud al-Batal, and Abbas al-Tonsi. 1995. *Al-Kitaab fii Ta'allum al-'Arabiyya: A Textbook for Beginning Arabic*. Georgetown University Press. Washington, D.C.
- Clarity, B.E, Karl Stowasser, and Ronald G. Wolfe, eds. 1964. *A Dictionary of Iraqi Arabic: English Arabic*. Georgetown University Press. Washington, D.C.
- Cowan, David. 1958. *An Introduction to Modern Literary Arabic*. Cambridge University Press. Cambridge/London.
- Cowell, M.W. 1964. *A Reference Grammar of Syrian Arabic (Based on the Dialect of Damascus)*. Georgetown University Press. Washington, D.C.
- Ferguson, Charles. 1959. "Diglossia". *Word* 15:325-40.
- Harrell, Richard S. 1962. *A Short Reference Grammar of Moroccan Arabic*. Georgetown U Press. Washington, D.C.
- Harrell, Richard S. 1965. *A Course in Moroccan Arabic*. Georgetown U Press. Washington, D.C.
- Harrell, Richard S. and Harvey Sobelman, eds. 1966. *A Dictionary of Moroccan Arabic: Moroccan-English, English-Moroccan*. Georgetown University Press. Washington, D.C.
- Haywood, J.A. and H.M. Nahmad. 1965. *A New Arabic Grammar (of the written language)*. Harvard University Press: Cambridge, Ma.
- Nydell, Margaret K. (Omar). 1994. *Introduction to Colloquial Arabic (Final Draft Version)*. Diplomatic Language Services. Arlington, Va.
- Ryding, Karin C. 1990. *Formal Spoken Arabic: Basic Course*. Georgetown University Press. Washington, D.C.
- Stowasser, Karl, and Moukhtar Ani. 1964. *A Dictionary of Syrian Arabic: English Arabic*. Georgetown University Press. Washington, D.C.
- Thatcher, Griffithes W. 1922. *Arabic Grammar of the Written Language*, 2nd. ed. D. Nutt: London.

Woodhead, D.R. and Wayne Beene, eds. 1967. *A Dictionary of Iraqi Arabic: Arabic-English*. Georgetown University Press. Washington, D.C.

- 池田修（1976）「アラビア語入門」岩波書店，東京。
黒柳恒男・飯森嘉助（1976）「アラビア語入門」泰流社，東京。
佐々木淑子（2000）「アラビア語入門」青山社，東京。
内記良一（1982）「基礎アラビヤ語」大学書林，東京。
奴田原睦明・岡真理（1989）「エクスプレスアラビア語」白水社，東京。